



発行日 2023. 12. 1  
発行者 渡辺 真樹  
発行所 一般社団法人  
群馬県理学療法士協会事務局  
群馬県前橋市大渡町 1-10-7  
群馬県公社総合ビル 6F

源流題字 浅香 満  
編集責任者 榊原 清

# 源流

No. 156

## Contents

■理学療法アラカルト『Shared decision making (SDM)』	高草木信太郎	・・・	02
■ワークライフバランスを考える 「仕事と大学院の両立」	荒木海人	・・・	03
■地域包括ケアシステムって何ですか？	間々田和也	・・・	04
■群馬県理学療法士協会による高齢者就労支援事業のご紹介	塩浦宏祐	・・・	05
■書籍紹介 「希望のつくり方」	久保一樹	・・・	06
■職場紹介 放課後デイサービス asoviva	小川克行	・・・	07
■後輩理学療法士へ 医療法人済恵会須藤病院	神宮佑理	・・・	08
■令和5年度成長期のスポーツ障害予防講習会	講師養成講習会参加	・・・	09
■第9回理学療法フェスタ in ぐんま開催		・・・	10
■介護予防推進リーダー導入研修会開催	■地域ケア会議推進リーダー導入研修開催		
■第34回群馬神経系理学療法研究会開催		・・・	11
■第52回技術講習会開催	■第38回臨床講習会開催	・・・	12
■第2回スポーツ推進部交流会開催	■2023年度前期研修A講座開催	・・・	13
■リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2023 ぐんま参加		・・・	14
■地域ケア会議推進リーダーステップアップ研修開催			
■第30回群馬県理学療法士学会開催		・・・	15
■会員動向	■ニュース收受	■編集後記	・・・ 16-17

# 理学療法アラカルト

## 『Shared decision making (SDM)』

～患者と医療者の合意形成に向けて～』

リハビリスタジオ群馬 高草木信太郎



### ●SDMとは

リハビリテーションでは、患者が日常生活を再獲得するために、病態や動作など客観的な評価に加え、病前生活やこれからどんな生活を希望するかなど、患者の希望や意向を把握することが求められます。また患者の価値観や生活背景、自宅環境や介護者の有無によっても治療方針や治療内容が異なります。その希望や意向を反映させ、患者と医療者がともに治療を決定する方法のひとつに SDM があります。

SDM は臨床場面で患者と医療者との間に治療に対する認識の相違が生まれないように行われる手法です。治療内容の決定だけでなく、治療の決定に患者自身が参加する意志を持つこと、医療者から患者への情報の提示方法、情報を提示する際の患者の参加など、治療決定までの過程が重要とされています。

### ●EBM と SDM の関係

EBM は「臨床研究によるエビデンス、医療者の熟練・専門性、患者の価値観・希望、そして患者の臨床的状況・環境を統合し、より良い患者ケアのための意思決定を行うもの」、「個々の患者のケアに関する意思決定過程に、現在得られる最良の根拠を良心的、明示的、かつ思慮深く用いること」など意思決定の過程で用いられるものとされている。

EBM は医療者を主体とし、SDM は医療者と患者の両方を主体とする概念ですが、ともにより良い意思決定を目指すもので、その過程や留意点など多くを共有しています。EBM の知識に加えて SDM の意識を持ち、患者と協力することができれば、エビデンスを活用することで臨床的な不確実性を減らせることも可能になります。

### ●おわりに

臨床場面では様々な意思決定を行う場面があるかと思います。患者にとって最適な根拠に基づく医療（evidence based medicine : EBM）を提供することは容易ではありません。以前病院で働いている際に、私も日々悩みながら患者と関わっている中で SDM を知りました。現在は保険外リハビリ施設で働いており、病院とは違う環境ですが、利用者とのコミュニケーションを通して、個々の希望や目標達成に向けて SDM の考えを参考に対象者ととも意思決定を行っています。患者や利用者との意思決定で迷っている方はぜひ一度 SDM を調べてみてはいかがでしょうか。

### ●参考・引用文献

1) 中山健夫：これから始める！シェアード・ディシジョンメイキング 新しい医療のコミュニケーション、第1版、日本医事新報社、2017、P1-20,131

2) 中山健夫 他：PT・OT・STのための診療ガイドライン活用法、第1版、医歯薬出版株式会社、2017、P85-88

# ワークライフバランスを考える

## 「仕事と大学院の両立」

医療法人樹心会 角田病院

リハビリテーション部 荒木海人

私は3年目に群馬パーズ大学大学院に入学しました。同大学の卒業生で、卒業後も研究を手伝っていただくことがあり、担当教授からのお誘いがきっかけです。教員になることが目標であり、一つのステップとして大学院は考えていたので大変喜ばしいことでした。

進学について上司にも相談し、新たに奨学金制度を作るなど挑戦しやすい環境を整えていただきました。しかし、当院では前例がなく仕事と大学院をどのように両立していけば良いのか全くイメージが付きませんでした。週2回研究日と土曜授業があるため休日の固定や、授業も夜間行われることから、時間外業務も行えませんでした。

進学してからは、精神的にも身体的にも苦しい時期もありました。勤務後に21時半まで授業を受け、研究活動を行い、帰宅は23時~24時という日がほとんどでした。また、休みは授業と研究日に充てているため、しっかり休めていませんでした。日々の業務も処理できず溜まった書類などは朝早く出勤したり、昼休みを活用するなど、両立できていたとは言い難い状況でした。今となっては、良くなかったと反省しており、間違った工夫の仕方だったことは言うまでもありません。

ここまでの話だとワークライフバランスとかけ離れていると感じる方もいるかと思います。

内閣府が定めた憲章では、ワークライフバランス（仕事と生活の調和）を「国民一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる社会」と定義しています。簡単に言うと「仕事」と「仕事以外の生活」との調和を取り、その両方を充実させる働き方、生き方と言えます。

当時苦しいと感じていたのは授業や研究が「仕事以外の生活」になっておらず、仕事の延長という気持ちを持っていたことが原因でした。仕事は勤務調整をしていただき、大学院に十分時間を充てられて無事に修了でき、調和が図られ充実した生活だったと今では思えます。また、大学院では物事をより論理的に考える力が養えたため、仕事も評価していただき、結果として役職に任用していただきました。

これらの経験を通し、大学院を検討している方に、次のご提案をさせて頂きたいと思います。

1つ目は、長期履修制度の活用も検討してみてください。研究や授業が「仕事以外の生活」であったとしても、睡眠時間が削られるような生活では作業効率が低下し、お互いに悪影響になります。少しでも時間的余裕を作った中で進学することで、双方に好影響を与えられるようになると思います。

2つ目は、ワークライフインテグレーションの考え方を持つようにしてください。ワークライフバランスの発展的な考え方で、ワークとライフに明確な線引きをしてバランスをとるのではなく、ワークとライフを統合して考え、両方が充実することで人生が豊かになる、という考え方です。大学院での学びを通し、マネジメント能力が向上して役職についたり、より科学的な理学療法が提供できたり、新しい領域の仕事にチャレンジできたりなど、仕事に好影響を及ぼすことが理想的です。

日本の長時間労働の問題が、ワークライフバランスを間違った視点でとらえさせがちですが、今後大学院に挑戦しようか迷っている人は、ぜひ前向きに物事を考え、仕事も生活も充実させていただきたいと思います。

# 地域包括ケアシステムって何ですか？

## 太田地域の地域包括ケアシステムの取り組み

太田地域リハビリテーション広域支援センター

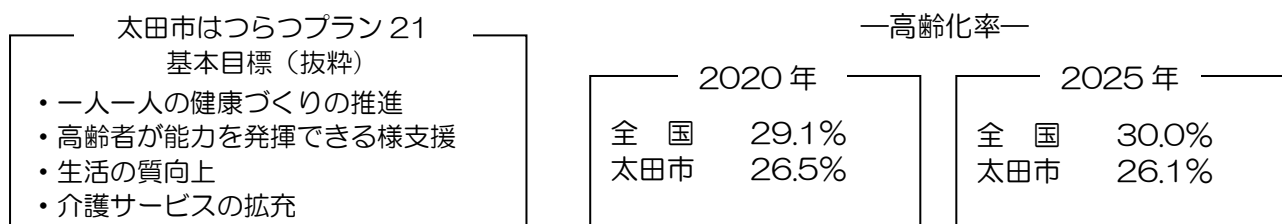
宏愛会第一病院 間々田和也



地域包括ケアシステムとは

『要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供されるシステムが地域包括ケアシステムであり、そのシステムは地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていくことが必要である。』と言うのが厚労省の提案となっております。


太田市としても「はつらつプラン21」（高齢者福祉計画）という基本目標を掲げており、様々な重点施策を行っております。太田市の人口は約22万人。自動車製造を中心とした全国有数の工業都市であり、群馬県南東部地域の中核都市です。全国と比較して高齢化率は低く、比較的若い方が多い地域となっております。




太田市は九つの圏域に分かれており、圏域ごとに地域包括支援センターが中心となって事業を行っております。太田地域リハビリテーション広域支援センターは、それぞれの地域包括支援センターと連携し、介護予防を中心とした事業では地域の病院や福祉施設とのコーディネート業務も行っております。


太田市との共同の活動として、長寿あんしん課（現：介護サービス課）と「えいっ！えいっ！おたん体操」を作成しました。前述の通り太田市は高齢化率がまだ低く、若い方が多い地域でもあるため、早期からの介護予防に力を入れ、比較的負荷量の多い運動も取り入れた内容としました。「高齢者を含めみんなで出来る体操をつくる」ということで元気な方から、足腰が悪くなりつつある方、幅ひろい方々を対象に出来るように簡単編（立位と座位）と上級編（立位）があり、太田市内の多くの介護予防教室で行われております。

えいっ！えいっ！おたん体操は YouTube にもアップロードされていますので、興味がある方はぜひ視聴・実践してみてください。



簡単編





上級編

太田地域リハビリテーション広域支援センターの活動

- ① 地域リハビリテーション従事者への研修会の開催  
健康教室など講師の派遣  
実施指導  
(介護サービス事業所等への訪問支援)
- ② 電話相談・面接相談
- ③ 啓発活動  
ホームページの設置・運営  
情報誌の発行
- ④ リハビリテーション推進協議会の運営
- ⑤ 専門職のネットワークづくり

# 群馬県理学療法士協会による高齢者就労支援事業のご紹介

社会局 地域包括ケアシステム部 塩浦宏祐

## 高齢者における労働災害について

高齢者の就業率は年々伸びており、65～69歳で約5割となっています。その背景で高齢者の労働災害の発生率も高くなることが報告されています。国も第14次労働災害防止計画(令和5年3月)において、「理学療法士等を活用」することを明記しており、理学療法士の職域拡大は益々進んでいくことが予想されます。群馬県理学療法士協会では令和4年度より社会福祉施設を対象とした高齢者就労支援事業を開始し、施設に対して理学療法士の派遣を行っています。本事業の活動内容と今後の展望についてご報告させていただきます。

## 令和4年度 高齢者就労支援事業について

介護老人保健施設(以下、老健)協会による、高齢者を対象とした介護助手養成事業に参加した介護助手を対象に実施しました。計3施設よりお申込みをいただきましたが、Covid-19感染拡大の影響もあり、1施設のみの実施でした。対象者に対して2回の介入が行えるよう、理学療法士1～2名を計4回派遣させていただきました。当日は健康管理評価、作業管理・作業環境管理評価を行った後に個別指導を実施しました。健康管理評価はフレイルや非特異性腰痛の評価、歩行能力評価を中心に実施し、作業管理・作業環境管理評価は実際の業務場面を評価しました。

最終的に3名の介護助手に対して介入を行いました。具体的な作業指導としては、モップ掛けの姿勢、低い高さでの作業場面に対する作業姿勢の指導、腰を曲げずに行うための足の位置の助言、シーツ交換の際のベッドの高さ調整等について伝えました。体操は日本理学療法士協会産業領域推進委員会作成のパンフレットを用いて指導しました。本事業を通して得られた課題として、対象者都合による訪問計画(日程調整)、身体機能評価の時間やスペースの確保の難しさ、施設内導線把握の難しさなどが挙げられました。

## 令和5年度 高齢者就労支援事業と今後の展望

今年度は老健、特別養護老人ホーム、グループホーム、訪問介護事業所で就労する方を対象に理学療法士の派遣を予定しており11月以降から順次実施していきます。事業計画は昨年度の課題を活かしてブラッシュアップさせています。

現時点では部員とアドバイザーの方を中心に派遣しておりますが、来年度以降は会員の皆様から広く公募していきたいと考えております。また、他業種への展開も視野に入れております。本事業を通して、高齢者が健康で働き続けられる社会の実現に向けて寄与していきたいと考えていますので、是非ともご協力をお願いいたします。

高齢者介護職員の  
腰痛・転倒を予防しませんか  
健康で元気に働こう！

理学療法士が  
出前講座・体力測定いたします！

参加無料

高齢者の労働災害のトップは腰痛と転倒  
社会福祉施設における労働災害発生要因 (令和2年)

腰痛	36%
転倒	33%
腰痛・転倒	7%
交通事故	4%
震災	5%

社会福祉・介護事業における労働災害は、年々増加しており、「腰痛・転倒」の労働災害が約7割を占めています。特に50歳以上の高齢者から増加します。年齢を重ねても元気に働き、元気に過ごすためには体力を維持し、負傷のからまない身体を使う方を意識することが重要です。理学療法士による指導を通して、労働者の健康を目指しましょう！

群馬県理学療法士協会では  
介護福祉施設で働く高齢者の労働を支える活動を行っています。

- ✓ 腰が痛くて仕事に支障がある
- ✓ つまづきやすくなった
- ✓ 体力の低下が心配

こんな悩みはありませんか？ 専門家がご支援いたします。お気軽にご相談ください

お問い合わせ  
協会 社会局  
〒400-0000 群馬県 塩浦 宏祐  
sukafu@gmail.com

令和5年度版 パンフレット

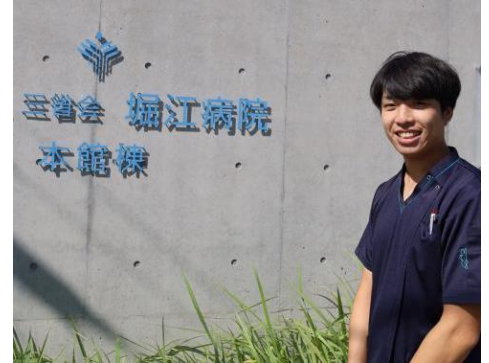
# \*\*\*\*\*書籍紹介\*\*\*\*\*



## 「希望のつくり方」

堀江病院 久保一樹

著者名：玄田有史  
出版社：岩波新書  
価 格：836 円



理学療法士になって一般病院・スポーツ現場・有料老人ホームなどで幅広い疾患や年齢の対象者のリハビリテーションにこれまで寄り添ってきました。

その中で感じることは、対象者の意思や希望を考えることが何よりも大事なことであるということです。

私たち理学療法士は、ケガや病気などで身体に障害のある人や障害の発生が予測される人を対象として日々の臨床業務を行っています。その中で対象者の「HOPE」を聞き取ることが重要であると養成校時代から教えられていると思います。しかし実際、対象者の中には病前の状態とのギャップから希望を生み出しにくく見えない未来に気を落とすということが往々にしてあると思います。

皆さんは、そのHOPEというものを有耶無耶にして療法士自身の推測に置き換えていませんか？日々の経過に合わせて対象者の希望に沿ったリハビリテーションを提供できているでしょうか？

少しでも心の中で思い当たることがあれば、本書を手にとって頂きたいです。本書では、社会学の観点から「希望」というものはどこから生まれているのかが記されています。

本書には希望の作り方として“Hope is a Wish for Something to Come True by Action (with Others)”と述べられています。つまり他者との関係や行動によって希望はつくられるということです。具体的に述べるなら脳卒中や骨折で機能低下が生じた方は急性期において自宅生活や趣味活動を再開することを中マイメージしにくいと思います。徐々に回復することで、一人で起居ができ、起立ができ、歩行ができるようになると「また元の生活がしたい」「趣味を再開したい」といった希望を作ることができると思います。

療法士は対象者が希望を持てるようにリハビリテーションによって対象者の行動を主体的に促していく必要があると考えます。つまり対象者の方から「〇〇を目指したいから〇〇をやりたい。」と思って貰えたら希望を叶えることに大きく近づくでしょう。また経過に合わせて、対象者に成功体験を積んでもらい、これまでの経過を顧みてどれだけ良くなったのか内省してもらうことも重要です。

ただし、注意として対照的に「先が見えずぎても」希望は失われてしまうようです。皆さんもこれから先の将来が分かりきっていたら、まるで単純なゲームをしている様な退屈な気持ちになると思います。つまり「わくわくする何か」が希望には必要なのかもしれません。

『遊びのある社会こそ、創造性は生まれますし、希望もつくりだせるのです。』

と本書では締められています。

対象者が明るく希望を見出せるために、我々はもう少し対象者がワクワクする様な関わりやリハビリテーションが必要なのかもしれません。



# 職場紹介

## 放課後デイサービス asoviva

小川 克行

株式会社アソビバは「可能性しかない子どもたちの未来に全力を注ぎます」をスローガンに子どもたちの社会参加と保護者のレスパイトを目的に放課後等デイサービス、児童発達支援事業所を3事業所運営しています。

その内、放課後デイサービス asoviva では重症心身障害対応型の放課後等デイサービス、生活介護の多機能事業所として小学1年生から18歳までの方が利用しています。主な対象は学齢児ですが、学校卒業後の生活へのスムーズな移行のため、希望により一定期間フォローしています。所在地は桐生市の中心街にあり、週末には近隣でのイベントも多く、積極的に参加しています。地域の人たちの目にも止まりやすく、屋外で歩行練習や車椅子駆動練習をしているとよく声をかけてもらいます。

スタッフは理学療法士の他に保育士、児童指導員、看護師等がおり、各職種の特徴を活かしながら個別活動、集団活動、課外活動を行っています。

理学療法士は個別活動では利用者個々の評価や個別支援計画に基づいて他職種と協力してプログラム立案・実施しています。集団活動や課外活動では個々に合わせた活動の参加方法や姿勢について調整をします。また、F-words (ICFの枠組みに子どもに大切な6つのF:Function, Family, Fitness, Fun, Friends, Futureを組み込んだもの)を取り入れて子ども本人や家族の想いを多職種で共有して個別の課題設定や支援計画に反映しています。意思決定支援、コミュニケーション支援にも力を入れているところです。



今後は相談事業と地域の連携強化、ユニバーサルフレーム (SPIDER) 導入をする予定です。特に医療との連携において放課後等デイサービスは子どもたちにとって生活の場であるのと同時に保護者や学校の教員との情報交換を日常的に行えることから、生活の中での課題を把握しやすい立場にあります。療育センターのリハビリテーション担当者と連携して補装具・福祉用具の使用状況や生活上の課題の情報、評価を情報交換することで、より利用者の生活が豊かになっていくと思います。見学も積極的に受け入れておりますので興味のある方がいればぜひ一度ご連絡ください。

# 後輩理学療法士へ

医療法人済恵会 須藤病院

神宮佑理



皆さんはじめまして、医療法人済恵会須藤病院に勤務している5年目理学療法士神宮佑理です。今回は私の経験を話したいと思います。

私は1年目から3年目までは急性期病棟配属になりました。1年目は病院の雰囲気や業務に慣れること、患者様の病態理解をして治療をすることに毎日精一杯でした。時間が経つのは早く感じ自分自身が業務をこなすことで一杯一杯だったような気がします。当院は回復期病棟があるため治療途中で回復期病棟へ転棟してしまい最後まで一緒に患者様の経過追えず残念な気持ちになったこともありました。

3年目から現在まで外来リハビリ、訪問リハビリに携わることとなりました。

外来リハビリでは急性期病棟と違い基本的にADLは自立されていますが社会への復帰を目指している方や進行性の疾患を持ち徐々に機能低下していく方など急性期病棟と違い年齢的に若い方と関わる機会が多いです。機能改善が一番ですが「仕事に戻れるのか」「今後歩けなくなるのか」「何を目標にすればよいのか」等相談受け、心理面でのフォローが必要となる場面が多いです。訪問リハビリでは当院一度休止をしていましたが再開となるタイミングで関わらせていただく機会を得ました。開始当初は介護の知識は少なく、自宅で利用者様やご家族の方がいる環境でリハビリすることにとっても緊張した記憶があります。当院の地域柄高齢の方が利用していることが多いです。生活の一部で関わらせていただき、実際に利用者様が生活のどの場面で困っているのか目の当たりにし、病院でのリハビリの違いや必要性に気づかされます。また家族、ケアマネジャーと関わり意見交換を行うことが多いです。現在では訪問リハビリ拡大のため地域連携会議という場では発表する機会をいただき貴重な経験もさせていただきました。

1年目から現在まで急性期、回復期、維持期とさまざまな場面でのリハビリを経験してきました。1年目に感じた残念な気持ちは今ではなく急性期でのリハビリがあったからこそ回復期や維持期につながると考えられるようになりました。「この治療でよいのか」と思うことがあると思いますが関わり方が違っても患者様や家族のHOPEを第一に考え、また私は「この人で良かった」と思っていただけのような理学療法士を今後も目指していけたらと思います。

新人の方や2-3年目の皆さんにとって異動はネガティブな印象もあるかもしれませんが、異動して気づけたこと・学んだことが多かった為、様々な分野でたくさん経験を積み、自分自身にとって本当に興味のある分野をみつけていただけたらと思います。

今回はこのような機会をいただきありがとうございました。







# 研修会報告

## 令和5年度成長期のスポーツ障害予防講習会 講師養成講習会参加

### <概要>

令和5年6月25日(日)、オンライン開催にて、(公財)運動器の健康・日本協会主催の標記講習会に県士会の推薦により2名が参加しました。本講習会の目的は、協会が作成した少年野球指導者向けの全国统一カリキュラムが指導できる講師の育成です。カリキュラムとは、少年野球選手向けの体幹トレーニング及びストレッチ、PITCH SMART III を基にした障害予防・復帰に関する説明や実技指導で構成されています。さらに、本講習会では実技指導に加えて、整形外科医師から成長期のスポーツ障害・外傷の概要、理学療法士から障害予防のコンディショニングをご教授いただきました。

本講習会修了後には、全国9ブロック(今後は各都道府県)で開催される少年野球指導者向けの研修にて医療的な専門家として障害予防等を目的に説明・指導します。また、講師をするだけでなく、全国で活動している理学療法士との情報交換会や運動器疾患に関するシンポジウム等が催されています。情報交換会では、全国的な障害予防活動や部活動サポート、学校保健等の関わりについて情報を得たり、活動内容の発信を行ったりすることができます。

### <参加者所感>

上武呼吸器科内科病院 渋澤雅貴

成長期のスポーツ障害と障害予防のコンディショニングについて、再度学習する良い機会となりました。集団に対する指導の注意点等もお話いただき、自分が普段関わっている中学生の硬式野球チームでの活動や実際の講習会での指導に活かしていけたらと思います。また、今回の講習会では今後普及が進んでいくと思われるスクールトレーナー制度についてのお話もあり、他県の様々な取り組みも含め非常に勉強になりました。群馬県のスポーツをさらに盛り上げていけたらと思います。

上牧温泉病院 深津元

帯同している高校野球部でも障害予防や機能改善を目的としたトレーニング指導が多いですが、本講習会へ参加したことで選手並びに指導者へ障害予防を共有するコツを再考できました。また、8月に開催された理学療法士講師情報交換会では、世代トップレベル野球チームへの帯同報告や学校保健での障害予防活動など様々なケースで理学療法士が働いていると実感しました。今後はより一層、群馬県でのスポーツ現場や学校保健など様々な活動に支援ができるよう準備していきたいと思います。

## 第9回理学療法フェスタ in ぐんま 開催

令和5年7月17日（日）、けやきウォーク前橋2階けやきホールにて、第9回理学療法フェスタ in ぐんまが開催されました。今回は、“腰痛”をテーマに「理学療法・理学療法士について」「腰痛の基礎知識」については群馬県理学療法士協会広報部 利根中央病院の七五三木史拓先生、「利用者も労働者も大切にするケアのかたち～高齢者施設におけるノーリフティングケア～」については群馬パース大学の田辺将也先生、「スポーツと腰痛」については東前橋整形外科病院の小保方祐貴先生にご講演いただきました。ご参加いただいた一般の方々に理学療法士の役割や腰痛について理解いただけたかと思えます。

また会場では、ご参加していただいた方に、エコバックやボールペンなどの記念品配布や介護用リフトや福祉用具の展示もあり、にぎわいを見せていました。



## 介護予防推進リーダー導入研修会開催

令和5年7月30日（日）、オンライン形式にて介護予防推進リーダー導入研修会が開催されました。

「介護予防の目的とPTの役割」について、北原絹代先生より介護予防事業の制度の説明やリハビリ専門職に求められていることについてご講義いただきました。「介護予防の実践」については、原田亮先生よりご講義いただき、実際の介護予防事業で行っていること、実際の流れやリスク管理の注意点などを教えていただきました。「介護予防事業の企画立案・見直し」については山上徹也先生よりご講演があり、グループワークを行いました。グループワークでは行政の方からの依頼にたいして、フレイル予防事業の企画・立案、対象者の設定やプログラムなどについて実際の事業で必要となる項目について話し合いを行い、発表を行いました。

今回の研修に参加させていただき、介護予防事業の重要性を学ぶことができました。また、グループワークにて、企画・立案を実際に行い、企画することの難しさを知ることができ、他の参加した先生方の考えも知ることができ大変勉強になりました。

## 地域ケア会議推進リーダー導入研修会開催

令和5年8月6日（日）、地域ケア会議推進リーダー導入研修会に参加しました。「地域包括システムについて」は小野友也先生、「地域ケア会議について」は森尻麻子先生、「地域ケア会議における理学療法士の役割について」は篠原智行先生、「地域ケア会議の心構えと実際について」は入内島弘太先生の4名にご教授いただきました。

今後、2025年問題や2040年問題に直面した時、対象者の方が住み慣れた地域でその人らしく人生を送れるように地域や行政機関と医療職が団結することの重要性や、私たちリハビリ専門職の役割の大切さを感じました。

また、実際の模擬ケア会議を体験し、対象者の方の資料を短時間で読み込み、助言者として課題として課題を解決する難しさも感じました。

今回の導入研修会で経験したことを今後も活かしていきたいと思えます。

介護老人保健施設うららく 森田昂輝

## 第34回群馬神経系理学療法研究会開催

令和5年8月26日に第34回群馬神経系理学療法研究会に参加しました。テーマは「脳卒中患者に対する理学療法」で、急性期については群馬大学医学部附属病院の萩原晃先生、回復期については老年病研究所附属病院の小林将生先生より、急性期・回復期でのリハビリテーションや取り組んでいることについて、症例や研究結果を基にご教授いただきました。

私は、生活期で業務しております。急性期・回復期での業務内容や取り組みなど、とても勉強になりました。今回の研究会で学んだことを生活期リハビリテーションに活かしていければと思います。

介護老人保健施設うららく 森田昂輝

## 第 52 回技術講習会開催

令和5年8月20日(日)、太田医療技術専門学校にて第52回技術講習会が開催されました。今回は、徒手療法「腰痛を対象とした筋膜調整」をテーマに、筋膜調整サロントリガーの半田学先生より講義と実技を学びました。40名の先生方が参加されました。



## 第 38 回臨床講習会開催

令和5年9月3日(日)、高崎健康福祉大学にて、第38回臨床講習会が開催されました。「排泄機能障害と理学療法」をテーマに名古屋大学大学院の井上倫恵先生よりご講義いただきました。

講義では、排尿自立のために理学療法の必要性について、寝たままではなく離床トイレに座ることが解剖学的に排尿しやすくなるため大切であり、一連の排尿動作自立のために身体機能の評価とリハビリの必要性、排尿自立加算について教えていただきました。

また、排泄障害の種類や評価方法、アプローチ方法について教えていただき、失禁にも様々な種類があることや、排尿障害に対して必要な評価項目と排尿日誌をもとにしたアプローチ方法を知ることができました。



## 第2回スポーツ推進部交流会開催

令和5年9月23日（土）、スポーツ理学療法に携わるセラピストの交流を目的に、地域局スポーツ推進部による第2回スポーツ推進部交流会（北毛・西毛・中毛ブロック）が、渋川市中央公民館で開催されました。

第1部は、参加者から7施設（吾妻東整形外科・あさくらスポーツリハビリテーションクリニック・井上病院・群馬中央病院・せき整形外科・善衆会病院・ゆうあい整形外科）の先生方より、スポーツ理学療法に関わる活動内容について紹介されました。組織全体でスポーツをバックアップしている施設や、活動の範囲を広げたいと模索している施設など、各施設の特徴を知ることができました。

第2部では2グループに分かれて、日々活動する中で生じる疑問や悩みなどを話し合う場が設けられました。「経験を積み上げるために必要な行動は何か?」、「職場内でスポーツ理学療法スキルを高めるにはどうすればいいのか?」、「スポーツに関する研究活動に取り組みたい。」など、参加者のモチベーションの高さを感じる意見交換が活発に行われました。散会後も名刺交換や情報交換が引き続き行われるなど、参加者のご協力のもと充実した交流会が開催できました。



## 2023年度前期研修A講座開催

令和5年10月1日（日）、群馬大学にて2023年度前期研修A講座が開催されました。

生涯学習部の先生方が講師を務められ、「A6 生涯学習について」「A1 職業人と倫理」「A3 人間関係及び接遇」「A5 理学療法における情報管理」について講座が行われました。普段の臨床では、あまり意識することの少ない分野ですが、理学療法士として働いていくうえでは非常に大切なことであり、参加された先生方は貴重な研修になったかと思います。



# リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2023 ぐんま開催

令和5年10月7日（土）から8日（日）の2日間に向け、ALSOK ぐんま総合スポーツセンターふれあいグラウンドにて、リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2023 ぐんまが開催され、群馬県理学療法士協会チームは、リレーウォーク、テントブースにおけるロコモ度テストで参加しました。

このイベントは、がん患者さんやそのご家族を支援し、地域全体でがんに向き合い、がん征圧をめざすチャリティー活動です。Save Lives を使命とし、がんの告知を乗り越え、生きていることを祝福し（祝う Celebrate）、旅立った愛する人々を偲び（偲ぶ Remember）、がんで苦しむ人や悲しむ人をなくす社会を作る（立ち向かう Fight Back）ことを目指し、全国で開催されています。

開会式後、シャボン玉に包まれながらサバイバズウォークがスタート。その後からたくさんのチームがそれぞれのチームフラッグを掲げて歩き始めました。

ステージでは、さまざまなショーや演奏、合唱が行われ会場を楽しませました。初日のトリを飾ったのは、なんと、渡辺会長も所属するバンド演奏！心地よい歌声と演奏で、風が強くなると寒くなった会場内を温めてくれました。

日暮れと共に会場内にはルミナリエに火が灯され、幻想的な空間に様変わり。近隣が寝静ってからでも、群馬県理学療法士協会チームのメンバーは、たすきを繋ぎ、夜通し歩きました。

5年ぶりの夜越え開催となりましたが、ご参加いただいた県協会員とご家族様、ボランティア学生にご協力いただき、無事にファイナルラップを迎えることができました。

がんについて関わることも多い私たち理学療法士は、支援についても考える大変貴重な機会となりました。



## 地域ケア会議推進リーダーステップアップ研修開催

令和5年10月10日（火）と13日（金）の2日間、地域ケア会議推進リーダーステップアップ研修がオンラインにて開催されました。講師に株式会社ほっとリハビリシステムズ代表取締役、日本理学療法士協会理事も務めておられる松井一人先生をお迎えし、ご講演いただきました。

ご講演では、2035年問題について理学療法士の需要はまだ増えていくが、需要のピークアウトした先でどうするのか考えなければならないとおっしゃっていました。今後、地域で大切なのは、マネジメントの視点であるご教授いただきました。また、先生が代表取締役を務めている施設で取り組んでいることや海外展開について、地域の介護予防のための、これからの展望をおはなしいただきました。

今回の研修に参加し、これから理学療法士のマーケットの中で生き残るために真剣に考えなければならないという言葉が、非常に印象に残りました。日々変化する社会の変化に目を向けることの重要性を学ぶことができました。

## 第30回群馬県理学療法士学会開催

令和5年10月29日（日）、高崎健康福祉大学を会場に、第30回群馬県理学療法士学会が「為せば成る NEXT INNOVATION」をテーマに開催されました。学会長は高崎健康福祉大学の竹内伸行先生、準備委員長は高崎健康福祉大学の千木良佑介先生が務められました。

今回の学会は、一般演題数が過去最多の46演題となり、参加者も276名を数え、盛大に開催されました。会場はメインの会場以外に、サテライト会場もあり、ライブ配信での視聴も可能となっていました。

基調講演では、新潟医療福祉大学リハビリテーション学科の江玉睦明先生より「機能解剖学からひも解く運動器疾患の評価と治療」をテーマにご講演いただきました。膝関節を中心に運動学や解剖学の視点から、超音波エコーや遺体標本の資料を多数ご提示いただき、関節可能域制限の原因やアプローチ方法についてご教授いただきました。ランチョンセミナーでは、高崎健康福祉大学健康栄養学科の竹内真理先生より「リハビリテーションと栄養」をテーマにご講演いただきました。リハビリを行う上で、患者の栄養状態の把握や栄養の管理が重要であるご教授いただきました。教育講演では、群馬大学医学部附属病院の看護師、佐藤綾子先生に「看護師が理学療法士に期待すること、知っておいてほしいこと」をテーマにご講演いただきました。他職種チーム医療の中で、それぞれの職種に見え方や考え方に違いがあり、その中で理学療法士に期待されることとして、ADLや予後予測などについて理学療法士からの意見は参考になることが多く、積極的に他職種連携を深めていただきたいとお話いただきました。シンポジウムでは、「理学療法士の多様性について」をテーマに、研修者と教育者の立場から高崎健康福祉大学の冨田洋介先生、研究者の立場から国立スポーツ科学センターの木村裕也先生、企業の立場から株式会社ORPHEの大塚直輝先生の3名にご講演いただきました。それぞれの先生方からこれまでのご経験や取り組まれてきたこと、ご活躍されている専門分野の特徴などについて、ご講演・議論いただきました。

学会に参加させていただき、非常に参考になることが多く大変貴重な時間になりました。

### 学会賞 受賞おめでとうございます

- 最優秀賞： 医療法人石井会 石井病院 大隈 雄太 先生  
優秀賞： 医療法人真木会 真木病院 渡邊 省吾 先生  
奨励賞： 平成日高クリニック総合ケアセンター 大塚 日里 先生





## 会員動向

令和 5 年 11 月 22 日現在

会員数 2,157 名 休会数 303 名 新入会数 123 名 施設数 379

## ニュース收受

2023/8/3	会報 群臨技 479 号	群馬県臨床検査技師会
2023/8/3	群馬県作業療法士会ニュース 第 153 号	群馬県作業療法士会
2023/8/21	群馬県言語聴覚士会ニュース 73 号	群馬県言語聴覚士会
2023/8/29	JPTA NEWS Vol.344	日本理学療法士協会
2023/8/31	群馬県医師会報 No.901	群馬県医師会
2023/9/11	ゆきわり草 No.204	新潟県理学療法士会
2023/9/19	和歌山県理学療法士会 会報誌 No.162	和歌山県理学療法士会
2023/9/19	鹿児島県理学療法士協会ニュース No.96	鹿児島県理学療法士協会
2023/9/26	群臨技会誌 Vol.62	群馬県臨床検査技師会誌
2023/9/28	群馬県医師会報 No.902	群馬県医師会
2023/10/3	第 33 回京都府理学療法学会プログラム集	第 33 回京都府理学療法学会
2023/10/3	兵庫県理学療法士会ニュース Vol.201	兵庫県理学療法士会
2023/10/12	会報群臨技 480 号	群馬県臨床検査技師会
2023/10/16	神奈川県理学療法士会ニュース	神奈川県理学療法士会
2023/10/20	秋田県理学療法士会ニュース第 210 号	秋田県理学療法士会
2023/10/22	茨城県理学療法士会インフォメーション No.181	茨城県理学療法士会



### \*\*\* 編集後記 \*\*\*

本年も源流の編集に携わられていただき、研修会や学会の企画・運営していただいた先生方、源流の原稿執筆にご協力いただいた先生方には心より感謝申し上げます。

今年もあと1か月くらいとなり、寒い季節が続きますが皆様体調にお気を付けてお過ごしください。

蜂巢 健人